

Maurizio Rolli



TEEN
TOWN
CULTURE

イタリアで活躍するベース・プレイヤー、マウリッツォ・ローリが敬愛するベース・ギターの巨人、ジャコ・パストリアスに捧げたアルバムを完成させた。たんにジャコの作品をとりあげるという平凡な創りではなく、ジャコへの彼の愛の大きさがすべてを物語る素晴らしい内容になっている。(文:マウリッツォ・ローリ)

“ジャコになる”、それは若いエレクトリック・ベース・プレイヤーが、研鑽を積んでいく過程のどこかで一度は必ず見る夢だ。破天荒な人生だったにもかかわらず、ジャコ・パ

ストリアスは、彼を追いかけるすべてのミュージシャンを今も魅了し続けている。エレクトリック・ベースという楽器において、彼のように大きな影響力と革新性を持ったミュージシャンは二度と現れないだろう。

ベース・プレイヤーが真っ先に自覚しなければいけないのは、もうひとりのジャコになるのは不可能だということだ。時として現実には残酷なものだが、それを直視しないと、アーティストの夢が打ち砕かれて、仕事の内容に悪影響が及ぶ危険が生じてしまう。

このレコーディングは、ジャコの最も心惹かれる、そしてそれゆえにもっと評価されてしかるべきだと思われる作品を、鮮明に心に

イタリアの人気ベース・プレイヤー

マウリッツォ・ローリ

リスナーの好奇心を刺激し、ありふれたものに飽き飽きしているファンを満足させる
生氣あふれる音楽を創りたかった。



◀マイケル・マンリング(右)とマウリッツォ ▶ マイク・スターン(右)とマウリッツォ